



題字 藤本利夫著

発行2019年8月1日 <1988年7月9日創刊>
 <毎月1日発行>
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 e-メールshiga.minken@gmail.com
 HP:http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

時代は必ず変わる

全滋賀教職員組合執行委員長 澤 豊治

今年も県下19市町の地教委訪問が終わった。例年、地教委の努力に敬意を表するとともに、教育長や課長と懇談、要請をする。決して交渉ではないので、厳しいやりとりはしない。あくまでも懇談と子どもや教職員のために頑張ってくださいのお願いだ。しかし、今年は、このやりとりが大きく変化してきた。しかも、ある市町だけで無くほとんどの市町でその変化が起こっているのだ。例えば働き方改革問題や教育に穴が空く問題。例年なら「効率を上げるように校長には指導している」程度の返事だが、今年は違う。「やっぱ、最終的には教員不足や。国が定数改善しな根本的な解決ならん。働き方改革なんて限界がある」と言う教育長や、私が、「定数改善し、臨時講師を無くすよう教育長さんからも声をあげてください」と言うのと「むしろ、県教委に国にもっと働きかけ

ろと教育長会としても言うてる。臨時講師採すのにどんだけ現場が苦勞してるかも言うてる。教職員課に一人専任で臨時講師担当者を置いて欲しいもんや」と半分憤った口調で話されるのだ。変形労働時間制の問題でも、「あんなもんはまやかしかや。センセらを余計に苦しめる。導入するつもりさらさら無い」と全市町の教育長、課長が明言している。学テ問題でも同様の傾向が顕著に見られた。つまり、今や安倍教育改革の矛盾は、多くの関係者にかなり鮮明に先鋭的な課題として見えてきているのではないだろうか。そして何よりも驚いたのは、そのことに対しお出会いた人の中に誰一人諦めておられる人がおられなかったことだ。そこに希望の光を見たような気がした。今や、安倍政権が暴君のような振る舞いをし、あたかも戦後民主主義や民主教育が終わっていくかのように

感じてしまうときがある。ところがどっこい、そうではなかった。時代はやはり弁証法的に着実に変化しているのだ。政治も教育も、今こそ誰もがこの国に生まれてきて良かったと思える社会、どの子も賢い人間らしい人間になる教育を求め、ともに頑張るときがきた。今ならできる、今なら変えられる、そんなことまで思わせられた今年の地教委訪問であった。そのためには、参院選は終わったが、ここで手を緩めること無く、安倍政権に我々の思いをぶつけるたかいかから始めたいと心新たにしている。(さわ とよはる)

《 今月の紙面 》

- ・時代は必ず変わる /澤 豊治 …P1
- ・県内各教育委員会における小学校教科書採択を傍聴しよう /木村 幸雄 …P2, 3
- ・滋賀県の脱原発市民運動 (2016年～) /野口宏 …P4, 5
- ・子どもが自ら学ぶ環境をどうつくるのか /山上修 …P6, 7
- ・滋賀の教育動向 5・6月 …P8